

神奈川支部 第39回 学習会

日本道徳教育学会研究委員会 神奈川支部共催 道徳科「授業づくり」セミナー（2023年11月25日）

I 支部会員三名による実践研究発表

「生徒も教師も充実する授業づくり」 園山久美子会員（横浜市立樽町中学校）

○はじめに



- ・横浜市立樽町中学校 昨年、昭和女子大学大学院で研究。
- ・今回「1教材研究」「2メンタリティ」「3校内研修」の3つを中心に提案する。

○「泣いた赤鬼」の授業

- ・教科書会社によって挿し絵が異なる。
- ・今回原文に近い「絵本」をもとに授業を考えた。
- ・友情・信頼について何を学ばせたいか、まず学習指導要領をもとに考えてみる。
- ・この教材の全てを授業で扱えないが、悩みや葛藤を経験しながら人間関係を深めていくことに焦点を当てることにした。

1. 教材研究

友情,信頼

この内容項目で何を学ばせたいか。

学習指導要領解説

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

○「友情」でどのように授業をするか？

友情,信頼

1. 教材研究

「人間と仲良くなりたい赤おにがいました。そこで青おにには手助けをします。結果、赤おには人間と仲良くなります。しかし、おにと仲良くする赤おにを案じて、青おにには、赤おにの前から姿を消すために、旅に出ます。それを知って、おいおいと赤おには泣きました。」

友情,信頼

1. 教材研究

「人間と仲良くなりたい赤おにがいました。そこで青おにには手助けをします。結果、赤おには人間と仲良くなります。」

相手を心から思いやり、信頼し、尊敬して、悩みや葛藤も経験しながら、友情の尊さを理解し、人間関係を深めていこうとする意欲を高める。

- ・小学校の学習指導要領に「お互い」という文言がある。しかし個人の意見の主張になってしまっは意味がない。そのため今回学習ではめあてから「お互いに」という文言を除いた。
- ・友情を培うために自分はどうかあればよいか。一人ひとりが友情に対する自分の課題と向き合う授業を考えた。

○導入アンケート

- ・事前にアンケートをとる。
- ・「しんゆう」とはどんな字が充てられるか。
- ・自分にじっくりくる親友を考えることで、子ども一人ひとりの「道徳性の違い」が焦点化される。
- ・自身が考える「しんゆう」を大切するため子どもがどのようなことを大切にしているかを考える。

1. 教材研究

導入

1. 昨りの学活にてアンケートをとる

2. 事前に取したアンケートの結果を画面に映し出し、他の生徒の意見を参考に自分の思い「しんゆう」を見つけ出す

・朝の時間に絵本『ないたあかおに』の前半を朗読する。絵本は事前に選んでおいた写真にして画面にて見せる

・心情円の準備

心友 親友 信友 真友
心優 優友 神優 神友 心有

【本時の学習課題】
あなたが今考えた「〇〇」を大切にするには、どのような考えが必要か。

友情を培うために自分はどうあればよいか

○展開前段

- ・挿絵をスライドで提示しながら読み聞かせる。
- ・①~④の発問を投げかける。(右図)
- ・④の発問は心情円から理由を考える。それぞれのその理由、考えを聞く。そこから自分がなりたい親友像が出てくる

1. 教材研究

展開前段

①青鬼が赤鬼に手助けをしたのは、どんな気持ちからだったのでしょうか。

②人間の友達ができた赤鬼はどんな気持ちでしようか。

③青鬼の手紙を読んだ赤鬼は、どんなことを考えているか。

④赤鬼と青鬼は「しんゆう」だと思えますか。(心情円)

1. 教材研究

④赤鬼と青鬼は「しんゆう」だと思えますか。(心情円)

どちらかというとしんゆうである

どちらとも言えない

どちらかというとしんゆうでない

ここでは、「しんゆう」かどうかを結論づけるのが目的ではなく、その理由の中に自分が大切にしたい「しんゆう」像を考える

1. 教材研究

【どちらかというとしんゆうではない】

- ・お互いが「しんゆう」と思っていたら、人間の友達を求めるのではなく、二人の仲は良くなっていくはず。
- ・離れ離れになる前に、赤鬼に自分の気持ちを伝えるのが「しんゆう」だと思える。

【どちらとも言えない】

- ・青鬼は一生懸命考えたかもしれないが、青鬼の思いを赤鬼はわかっていなかった。

【どちらかというとしんゆうである】

- ・赤鬼が青鬼の思いに気づいてお互いが思う友情がうまれた。
- ・お互いがお互いを一生懸命考えて信頼し合っている。

本時の学び
「しんゆう」になるには、相手を思いやり、尊重し、心から信頼できる人になろうとする考えが必要である。

○展開後段

- ・自分の考えが出てくるようになる。
- ・当初、教師が予想していた学びよりも深い意見が子どもたちから出てきた。

1. 教材研究

展開後段

心から信頼してる

相手を受けとめる

尊敬する

自分を大切にする

本時の学び
自分を大切にして、相手を受けとめて、心から信頼、尊敬するような考えをもつことが必要である。

今の自分を振り返ろう

初めに考えていた「しんゆう」と、今考えた「しんゆう」との違いはあるか。

何人かの生徒に振り返ったことを話してもらおう。

○終末

- ・徐々にフェードアウトするように終わらせる。今日の学びが子どもの中に浸透していくような雰囲気をつくっていく。
- ・教師が大切にしている言葉や偉人の言葉などで授業に余韻をもたせる。

1. 教材研究

終末

授業全体がフェードアウトしていく状態をつくる

教師の話し

教師の思い

同じ空間にいることで学びがある。誰かの発言が誰かの学びになる。

「生徒一人ひとりの「道徳性」の捉えの違い」をもっと深いところで考える

○授業の成果と課題

- ・どうしても発言する子が限られてしまうという課題があるが、教室という同じ空間にいて「誰かの発言」が「誰かの学び」になる。
- ・親友一人ひとりの「道徳性のとらえの違い」をもっと深いところで考えさせたい。
- ・本当に視点は友情だけだったのか、もっと別の視点でも考えてみるのが大切である。

○授業づくりのメンタリティ

- ・自分に生活スタイルや自分の性格に合った環境を見つけることで新しい授業アイデアも生まれる。
- ・何より次の授業を楽しみにする気持ちが大切である。

2. メンタルティー

○楽しい気持ちで授業づくりを

- ・好きな音楽を聴きながら
- ・好きなお茶を用意して
- ・お気に入りのカフェで
- ・好きな香りの中で

○授業の後は、次の授業も楽しみに！

12

○校内研修の成果

3. 校内研修のすすめ

「具体的な指導が見えました。」
「道徳の教科として何を押さえるべきなのかわかりやすかったです。」
「指導案の解説や授業の流れなど、実際に生徒に実施した様子を見せていただき勉強になりました。」
「道徳については何となくやっつけてしまっているところがあり、研修に参加してよかったです」
「道徳の授業を創るのが楽しいですね。」
「先生の言う楽しい意味がわかりました。確かにのめりこみます。」



13

教師も生徒もいっしょになって
ともに考え、ともに語り合い

ご清聴ありがとうございました。

Address 0917kumicocco@gmail.com

- ・勤務校の職員研修の中で道徳科授業の必要性について職員で考えてみところ前向きな反響があった。
- ・教師も生徒も一緒になってつくる道徳授業づくりというものが大切だと感じる。

「探究的な学習によるマルチユニット型の道徳科授業～道徳クラスの発想から、教科横断的に学ぶ授業づくり～」

相模原市立旭小学校 田屋裕貴 会員



はじめに

先生は、どうして「道徳」を研究しているんですか？ しかも休みの日に...！ ちゃんと寝てくださいね！

田屋せんせーい。道徳の良い授業ってどんな授業なの？ 今ってどんな授業ができればいいの？

子どもがよく学んでるって何を見てるの？ 教科の学力みたいに分からないもんね。

○はじめに

- ・保護者や、子ども、同僚…道徳に対する疑問を投げかけられる。身近な人に、専門用語などを使わず、分かりやすく説明するのは意外と難しい。
- ・なかなか分かってもらうのが難しい教科だともいえる。

○提案内容

- ・今回マルチユニット型道徳科授業を形成するための要素について紹介する。

マルチユニット型道徳授業

- ① 道徳クラス
- ② 探究的に学べる環境
- ③ 教科横断的な学び
- ④ マルチユニット型授業

① 道徳クラス

道徳クラスって何ですか？

~~道徳好きなクラス~~
~~道徳科授業が盛り上がるクラス~~
~~道徳的行動に溢れるクラス~~

道徳的な角度から考えることができるクラス

① 道徳クラス

「道徳クラス」を目指して実践しているんですね！

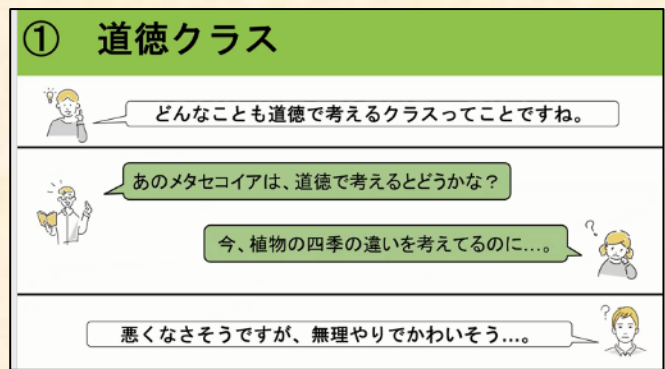
そういうわけじゃないんです。あくまで私が一人で称しているだけです。そんな言葉を使えば、子どもにとって道徳の教科価値のみが高くなってしまいますから。目指しているわけではなく、教育活動全般で道徳を学ぶ集団をイメージするために使っている言葉です。

目指すのは、道徳的な角度から考えられる児童の姿です。

○「道徳クラス」とは？

- ・「道徳が好きなクラス」「道徳の授業が盛り上がるクラス」のことではない。
- ・生活の中にあるものごとを「道徳的な角度」から考えることができるクラスである。
- ・「道徳クラスをつくること」自体が目的ではない。あくまで「道徳的な角度」から考えことのできる子どもの姿を目指している。

○「道徳的な角度から考える」とは？



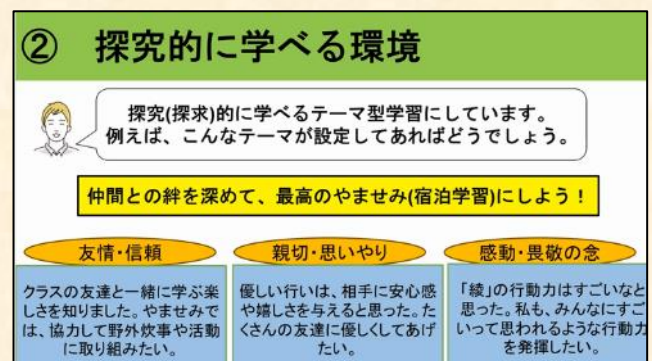
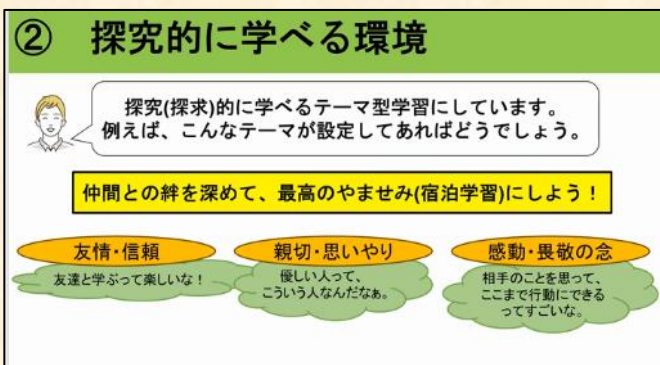
- ・校庭に生えているメタセコイアの木を見て…
「すごい大きな木だな…」
「一体何年生きているのだろう？」
「なぜ学校のシンボルになったのかな？」
「他にも学校の伝統はあるのかな？」
- ・このように「ある事象」や「身の回りのものごと」に対して道徳的な視点で考えたり、問いをもったりすることが大切である。
- ・しかし、ものごとを「なんでも道徳で考えればよい」というわけではない。

○どのように学んでいくのがよいか？

- ・子どもが全てを無理やり「道徳的角度」でとらえていくのは不自然である。
- ・自然と感じ取れることが大切である。
- ・5年生国語教材「たずね人」より
- ・ふとしたことを表出させる (右図→)
- ・国語に限らず様々な教育活動で、道徳的角度から考えられる子どもが育っていくことが理想である。



○道徳的角度を学びに取り入れていくために…




- ・「ふとした道徳的な気付き」をクラスで「探究的に学べるテーマ学習」にする。
- ・例えば、宿泊学習で目指すテーマをクラス全員で考える。そのテーマを達成するために、自分の道徳的な気づきが具体的にどのような姿になるのか考えてみる。

○「道徳的気づき」を記録するシート

- ・様々な教科、活動で気付いたことをつないでいくためのシート（社会で気づいたこと、国語で気づいたこと…）
- ・テーマ達成に向けて、子どもたちがそのアンテナを張っていき、気づきを記録していくことができる。

② 探究的に学べる環境



テーマの達成に向けて、「関係する、使える、必要、つながる」などと思った気づきを、その都度書き残していきます。

テーマの達成に向けた振り返り

（手書きの振り返りシート）

Everybody Smile プロデュース

（手書きの振り返りシート）


教科 内容

（手書きの振り返りシート）

○各テーマの設定の方法

- ・クラスで毎回テーマを決めるのが難しい時は学級目標、学校月目標、行事の目標などでも十分効果がある。

② 探究的に学べる環境



でもそのテーマって、どうやって決めているんですか？

学級活動や総合的な学習などで、子ども達が決めています。常に大きなテーマでなくても、月目標などのスモールテーマでも全然アリだと思います。自分たちで決めるのが大切です。

仲間との絆を深めて、最高のやませみ(宿泊学習)にしよう！

誰もが幸せになれる社会を目指そう！

高学年としての姿を意識しよう！

HAPPINESSなクラスになるように頑張ろう！

一人一人の個性が爆発できる、レインボークラス！

学級活動


総合

月目標

○探究と探求

- ・「探究」と「探求」は独立しているのではなく、探し求める中で、極めていくものが見つけれられるのではないかと感じている。（右図）
- ・道徳などで学ぶ「探し求めていくもの」の軸の中に総合のユニバーサルデザインやバリアフリーなどの「極める探究」が存在していると考えられる。

② 探究的に学べる環境



子ども達の学びは、探究なの？探求なの？

教科や学習活動の特質によって変わります。ただし、道徳を軸として考えた場合は、方向的な目標となるので「探求」です。その括りの中に、「究める」学習が展開されてくる場合があります。それは、「探究」的学びになりますね。

誰もが幸せな社会ってなんだろう

みんなが過ごしやすい町を考えよう

誰もが笑顔になれる社会づくり

道徳(軸)

国語

総合

探求

○教科横断的な学び

- ・一つの教科だけでなく、様々な教科を行き来しながらテーマに向けて多面的多角的に考えていく力を育成したいと考えている。
- ・学活だけでなくいろんな教科の特性を生かしながら、その教科ごとに学んでいくことが大切ではないか。
- ・様々な教科を行ったり来たりできるような学びをつくってあげればと考える。

③ 教科横断的な学び

様々な教科から、道徳の学びを得て教科横断的ですね！

それもそうですが、「道徳のため」ではないんです。教科横断的なので、行き来できる学びでないといけないかと。

優しい行って、こういう人なんだなあ。

親切・思いやり

友達に親切にすることは、相手のことを思って、「その人のため」にできることをするんだと思う。でもそれは、自分自身も「やりたい」って思うことが大切だし、一歩踏み出す勇気も必要。

「縁」は優しいなって思った。だって全く知らない「アヤ」のことを思って、広島に行っちゃ探そうとしてたから。相手と誰とか関係ないんだ。

優しい行いは、相手に安心感や嬉しさを与えたと感じた。たくさん友達に優しくしてあげたい。

③ 教科横断的な学び

複数教科を横断的に学ぶことは、課題に対して多面的多角的に解決する力が身に付きます。

仲間との絆を深めて、最高のやませみ(宿泊学習)にしよう！

学級活動

学級活動

道徳

総合

言語活動

探究

心情

合意形成

③ 教科横断的な学び

そもそも、一つの側面で解決するって難しいと思うんです。(単発・一時間で学べるものもありますが。)

仲間との絆を深めて、最高のやませみ(宿泊学習)にしよう！

探究

言語活動

心情

意思決定

合意形成

学級活動

課題はなに？分かったことをどうしてあげばいいの？

私はこのめあてで！

班で協力して話し合いなさい。室長が仕切ってやって！

周りの人の気持ちになって考えなさい。来年5年生も使うんだから学校の代表としていきましょう。

キャンプファイヤーのレクはこれにしよう！

○マルチユニットについて

- ・緩やかに生活経験と道徳がつながるように授業をデザインする。

④ マルチユニット型授業

テーマに対して、子どもとともにユニットを作っていきます。

誰もが幸せになれる社会

学級活動

「お楽しみ会の企画」

・合意形成の話し合い
・実践に対する改善

道徳

「誰もが幸せとは」(パッケージ型ユニット)

・親切・思いやり
・個性の伸長
・相互理解・寛容

総合

「Everybody Smile」(テーマの探究)

・車いすバスケの体験
・障がいについて学習
・対象に向けて計画

国語

「よりよい学校生活のために」

・課題の見つけ方
・ブラッシュアップ
・提案の仕方

④ マルチユニット型授業

今回の例では、総合から始めました。

Everybody Smile 2020.7.1

誰もが幸せになれる社会

道徳

「誰もが幸せとは」(パッケージ型ユニット)

・親切・思いやり
・個性の伸長
・相互理解・寛容

総合

「Everybody Smile」(テーマの探究)

・車いすバスケの体験
・障がいについて学習
・対象に向けて計画

④ マルチユニット型授業

考えたい心と実践の整理はできましたね。実践には、どんな力が必要になるかな？

発表の仕方とかまとめ方が必要！

お祭みたいにするから、企画する力が必要！

国語

「よりよい学校生活のために」

・課題の見つけ方
・ブラッシュアップ
・提案の仕方

学級活動

「お楽しみ会の企画」

・合意形成の話し合い
・実践に対する改善

④ マルチユニット型授業

子ども達は、単元なんて把握してないですね。

① 親の... ② 相互理解... ③ 公正 公平... ④ 感謝...

④ マルチユニット型授業

国語とかは...?

国語は、こちらから支援を入れました。
【発表の仕方】【まとめ方】といった声があったので「『よりよい学校生活のために』っていうドンピシャな単元があるよ!」と声をかけました。

国語

「よりよい学校生活のために」

- ・課題の見つけ方
- ・ブラッシュアップ
- ・提案の仕方

アドバイス

発表の仕方とかまとめ方が必要!

④ マルチユニット型授業

車いすバスケの人が言ってたけど、障がい者とか病人はなりたくてなっていない。

健常者の「自分が普通」という考えがそもそも「幸せ」を遠ざける。

正しい知識を持っていないから、ユニバーサルな工夫ができない。

「誰かのため」ではなく、「誰でも」

○ユニットの見直し

- ・途中計画のズレを感じる時もある。
- ・無理計画をやり通すのではなく見直すことも大切である。

④ マルチユニット型授業

最後に...。年間指導計画との関係性はいいんですか?

もちろん、計画通りにできるに越したことはないですね。

じゃあ、やっぱり子どもとユニットを作るなんてだめでは...?

「計画」なので、見直して修正することはいいのでは?

④ マルチユニット型授業

途中でユニットにズレを感じてきました。何とか軌道修正して整合性を持たせませう...

ストップ!! 強行突破せず、ユニットを見直しましょう。「違うな。」と児童が思ったということは、反対に「これは合ってる」が分かるはず。テーマ達成に向けて、立てた計画ユニットを見直し修正する。そんな姿も探究的で素敵だと思います。

○マルチユニットの目的

- ・「道徳のために」ユニットを組むのではなく、横断的にそれぞれの教科の学びが深めるために組むことが大切。

④ マルチユニット型授業

計画をもとに、担任と目の前の子ども達で最適な学び方を見つけていくことが、主体的に学ぶ活力になっていくと思います。

「計画を変えること」が目的ではないので、そこに共通する課題やテーマさえあれば、計画通りのユニットも当然あります。

気を付けていることは、教科価値をつけないことです。あくまで一つのテーマに向かって各教科から達成を図ります。「道徳科のために」「総合のために」と子どもが優劣をつけないように心がけています。

④ マルチユニット型授業

国語

道徳

社会

○同僚の先生から言われた言葉より

- ・子どもたちに道徳的に考える場面を少しは作れているかもしれないと自身の実践を見直すことができた。
- ・無理やりではなく、子どもたちにとってより自然な授業を考えていきたい。

おわりに

「先生は道徳で学級経営してるね!」

この言葉が嬉しくもよくわかりませんでした。道徳を好きすぎるあまり、推しすぎ?と思いました。ですが、これがきっかけで本実践に近づくことができました。

道徳性は教育活動全般で養っていくものですから、やはり「特別な教科」だだと思います。そう考えると、「道徳のため」にはしません、「道徳の角度」が各教科や各時間で入っていることは大切だと思います。

自分物語を紡ぐ

道徳科授業づくり

東京都品川区立大井第一小学校
曾根原 和明

○授業と生活を結び付ける自分物語

- ・ 2015年の論点整理でも学習を行動・実践に移すことの意義が述べられているが、道徳の授業の学びは日常生活になかなか転移されない。
- ・ 実効性のある道徳授業、日常の言動をどうしたら結び付けられるのか。
自分の経験振り返り、その心を動かす根源について考える。→「自分物語を紡ぐ」

問題意識

授業の学びと日常の言動とのズレ

【授業内】

「『きまりはみんなのためにある』
ということが分かりました」

【授業外】

校庭を目指して廊下をダッシュ



「教科化の大きな目的」の再確認

「『読み物道徳』から脱却し、問題解決型の学習や体験的な学習などを通じて、自分ならどのように**行動・実践**するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び、**実践**へと結び付け、更に**習慣化**していく指導へと転換することこそ**道徳の特別教科化の大きな目的**である」 教育課程企画特別部会（2015）「論点整理」

問い

どのようにしたら、
授業の学びと日常の言動を結びつけられるか。

自分物語を紡ぐ
道徳科授業づくり



自分物語とは

自らの**経験**に紐づく心の作用の根源となっているもの

具体的な
出来事



それに対する
意味づけ



自分物語

○自分物語の例

物語が行動に及ぼす影響

「私たちの日々の**行動**は、気まぐれに起こされるのではなく抱えている**自己物語**に基づく過去の**解釈**と**未来の予期**によって**構造化**されている。私たちは、先立つ出来事や後に続く**と予想される出来事**に照らして**意味があると思われる行動**をとっているのである」

榎本博明著（1993）『〈私〉の心理学的探求—物語としての自己の視点から』有斐閣、p.31

自分物語の例 なぜ廊下をダッシュするか？

問題意識

授業の学びと日常の言動とのズレ

【授業内】

「『きまりはみんなのためにある』
ということが分かりました」

【授業外】

校庭を目指して廊下をダッシュ



休み時間のサッカーの試合
(具体的な出来事)が

白熱して楽しかった。
(それに対する意味づけ)



新たな自分物語を紡ぐ必要性

授業の学びと日常の言動とのズレ

【授業内】「『きまりはみんなのためにある』ということが分かりました」

【授業外】校庭を目指して廊下をダッシュ

全速力で廊下を駆け抜け、校庭に到着することが、「意味があると思われる行動」

- ・物語は、私達の言動に影響を与える。
- ・自分がしている行動をもっとよく深く見つめ直すことが大切である。

○新しい自分物語を紡ぐためにはどうすればよいか？

新しい自分物語を紡ぐための3つのポイント

①物語上の“裂け目・矛盾点”に気付かせる

問題意識
授業の学びと日常の言動とのズレ

【授業内】「『きまりはみんなのためにある』ということが分かりました」

【授業外】校庭を目指して廊下をダッシュ

・試合中にきまりを破ったことで揉め事に発展し、楽しくなかった。
(具体的な出来事) (それに対する意味づけ)

・きまりを守るようになると、サッカーが楽しくなった。
(具体的な出来事) (それに対する意味づけ)

新しい自分物語を紡ぐための3つのポイント

②内容項目に関する出来事、価値観、信念、意図、願望、好みなどを膨らませていく。

・「きまりを守ったときのほうが楽しくなったのはどうしてだと思いますか？」

・「きまりを守り続けることに対して、あなたが大切にしていることは何ですか？」

・「サッカー以外にも、きまりを守ってよかったと思う出来事はありますか？」

・試合中にきまりを破ったことで揉め事に発展し、楽しくなかった。
(具体的な出来事) (それに対する意味づけ)

・きまりを守るようになると、サッカーが楽しくなった。
(具体的な出来事) (それに対する意味づけ)

新しい自分物語を紡ぐための3つのポイント

③葛藤を経て、新しい自分物語を紡ぎ出す。

【授業内】「『きまりはみんなのためにある』ということが分かりました」

【授業外】校庭を目指して廊下をダッシュ

在りたい自分の姿とは？

- ・道徳的価値を自分の生活と照らし合わせて考える。
- ・そこに裂け目・矛盾点を見出すことで新しい自分物語を見つけるきっかけとなる。

○直接体験を見つめる授業

- ・自分物語を紡ぐことで、自己の直接体験を今まで以上に見つめ直すことができる。
- ・教科書会社の年間指導計画作成資料の学習活動を分析した結果、直接体験を扱った学習活動は全体の15.8%とあまり多くなかった。

物語論を生かした授業の特質

自分の

①物語上の“裂け目・矛盾点”に気付かせる
自己の価値観・生き方を見つめ直すきっかけとなる。

自分の

②内容項目に関する出来事、価値観、信念、意図、願望、好みなどを膨らませていく。
道徳的価値と自らの直接体験を結び付ける。

学習者の
直接体験
の活用

自分の

③葛藤を経て、新しい自分物語を紡ぎ出す。
“裂け目・矛盾点”を修繕する。

物語論を生かした授業の構造

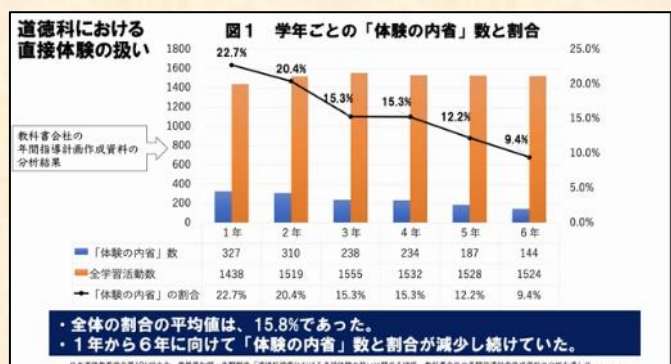
【理想】見逃されてきた価値観

【現状】生き方を左右している自分物語

裂け目・矛盾点

↓

新しい自分物語



○自分物語を紡ぐための5つのステップ

自己の直接体験を見つめる発問例

出来事	<ul style="list-style-type: none"> 「～したことはありますか」 「それはいつ(どこで、誰が、何を、どのように)の出来事ですか」 「その結果どうになりましたか」
価値観	<ul style="list-style-type: none"> 「その出来事から分かるあなたが大事にしていることは何でしょう」
信念	<ul style="list-style-type: none"> 「その出来事から分かるあなたが絶対に正しいと思っていることは何でしょう」
意図	<ul style="list-style-type: none"> 「あなたは何のためにそれを行いましたか」
願望	<ul style="list-style-type: none"> 「あなたは何を望んでいるのでしょうか」
好み	<ul style="list-style-type: none"> 「あなたはどのようなことを好んでいるのでしょうか」

自分物語を紡ぐ道徳科授業5STEP


STEP1 自分の経験を振り返り、生き方を左右している物語に気づく

STEP2 他者、教材との対話を通して、自分の物語上で見逃されてきた価値観に気づく

STEP3 過去と現在の生き方を比較し、在りたい自分を思い描く

STEP4 自分物語を書くことを通して、伸ばしたい自己について深く見つめる

STEP5 実践を通して自分物語を分厚くする



・どのような発問によって直接的な体験を見つめることを促せるか。(左上図)

STEP1

自分の経験を振り返り、生き方を左右している物語に気づく

内容項目にかかわる自分の経験を想起し、その経験から学習前の自分が大事にしていることを明らかにする。

「書いてよかったなあ」と思った経験を振り返ろう。
 「書いてよかったなあ」と思った経験
 私があそびでんのこととき伝って、いた時


その経験を詳しく振り返ってみよう。
 ・どうして「書いてよかったなあ」と思ったのかな？
 ・あそびでんがうれしそうに「ありがとう」と言ってくれてうれしかったから。

重要！この経験が分かるあなたが大事にしていることや考えは？
 うれかに自分が手伝って、もらった時ほうれしそうに「ありがとう」と言ってくれて、うれしそうに「ありがとう」と必ず言うことが大切だと思える。

STEP2

他者、教材との対話を通して、自分の物語上で見逃されてきた価値観に気づく

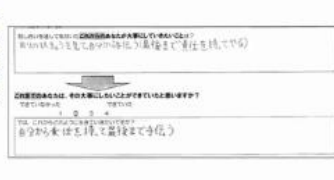
他者、教材との対話を通して、自分の物語上で見逃されてきた価値観に気づく。これまでの自分物語上に裂け目や矛盾点を生み出し、見逃されてきた価値観に気づけるようにする。そのために、教材の登場人物の行為がもつ意味、価値観や信念、意図、願望、好みなどを話し合う。



STEP3

過去と現在の生き方を比較し、在りたい自分を思い描く


2つの問い(「話し合いを通して気づいたこれからのあなたが大事にしていきたいことは?」、「これまでのあなたは、その大事にしたいことができていたと思いますか?(できていた度合いを数値化させる)」)について考えることを通して、ステップ1の物語では語りきれない裂け目や矛盾点に気づき、ありたい自分を思い描く。



STEP4

自分物語を書くことを通して、伸ばしたい自己について深く見つめる


時間軸の観点で示した文型を参考にしつつ、ステップ3で気づいた裂け目や矛盾点を埋めるために、具体的な出来事やその意味づけを時間軸上で整理し、自分の経験を再組織化する。納得感のある自分物語を綴ることが重要であるため、徐々に文型から離れ、子ども自身の言葉で記述させることが望ましい。



STEP5

実践を通して自分物語を分厚くする

ステップ4で新たに形成した自分物語を授業外に実践し振り返ることで、ありたい自分に近づいている喜びを味わえるようにする。



自分物語を紡ぐ道徳科授業の効果

- 指導書掲載の授業よりも、①経験を想起すること、②自己の生き方を具体的に考えること、③学習による新たな発見の理由を書くことを促進する、
- 経験を時間軸上で組織化し、意味づけることができる。

拙論(2021)「ナラティブ・アプローチを援用した道徳科授業の効果に関する研究」『道徳：研究紀要』第9号、pp.38-45。

- 経験を再組織化し、「自己の生き方についての考え」を深めることができる。
- 「伸ばしたい自己」についてのストーリーがSTEP1からSTEP4の活動、特にSTEP3を受けて紡がれる。

拙論(2022)「自己の生き方についての考えを深める道徳科授業の構想・実践—ナラティブ・アプローチの援用を通して—」日本道徳教育学会編『道徳と教育』第340号、pp.99-108。

- ICT端末を活用することで、生活経験の想起を促進する。
- ICT端末に蓄積してきた生活経験を想起することで、自分のよさや課題に関する理解を深めることができる。
- 生活経験と授業での学びを比較することで両者を接続できる可能性が高まる。

拙論(2023)「道徳科授業におけるICT活用に関する一考察—生活経験を生かし『自己を見つける』学びを促す指導法—」日本教材文化研究財団編『日本教材文化研究財団研究紀要』第52号、pp.41-48。

29

II 指定討論

道徳教育のこれからを考える — 3つの実践報告を受けて— 盛岡市立厨川中学校 及川仁美会員

○園山会員の提案から

- 子どもたち一人ひとりが自身の考えをもちながら自分事にしていく授業デザインに共感できる。
- 悩みや葛藤を通して人間関係を構成していくために役立てたい、人生を考えるきっかけにしているところが素晴らしい。
- 授業終末のフェードアウトとはどんな状態かを後程詳しく聞きたい。
- 「そうだよね」と思わず出てしまう言葉が、まさに教師も共に考える道徳授業として表れではないか。
- 親友の多様性を考える授業デザインは面白い。しかし導入で友情の多様性を考えることで、授業のなかで話し合う視点が広がってしまうのではないか。
- 子どもの考えを「広げるところ」と「焦点化する」ところを分けるとよいのではないか。

1 実践経過報告から

①園山先生

「生徒も教師も充実する道徳科授業づくり」

◎道徳で楽しく、ハッピーに、ほっこりと生徒もわくわく+教師にもやりがい

◎一人一人の「しんゆう」を考えること

- ↓
- ・個の道徳性の捉えの違いに対応
- ・自分の心の有りよう(価値観)と向き合わせる
- ・課題が一気に自分事になる



○田屋会員の提案から

- ・テーマも、ユニット構成も子どもが決めている所が素晴らしい。教科独自の学びもある。
- ・子どもが自分で書いて、自分の振り返りをしっかりとしているところも素晴らしい。
- ・道徳を学級経営の基盤に据え、場面ごとに分析的に捉えることで子どもたちの課題解決する力を育成していく。
- ・全教科フラットな関係で学びを行き来することが意識されている。
- ・教科の学びが深まることを大切にされている。
- ・「教科本来の学び」も達成できたかを検証することでさらに実践に説得力が出てくるのではないかな。

1 実践経過報告から ②田屋先生


「探究的な学習によるマルチユニット型の道徳科授業」
～道徳クラスの発想から、教科横断的に学ぶ授業づくり～

◎学級指導⇔道徳科授業の学びのズレ・矛盾一致させる→「道徳クラスをつくる」

◎マルチユニットによる道徳「道徳の角度」が各教科・各時間に入る意義

↓

まさに、全教育活動で行う道徳教育その要としての道徳科授業を体現



○曾根原会員の提案から

- ・「ナラティブアプローチ」の行動を意味づけるという所が素晴らしい。
- ・自分の価値観を紡ぎ出す、子どもが直接体験を深く考え、自分自身の価値観と向き合う上で効果的な実践だと言える。
- ・この「ナラティブ」の考え方にフィットする学習とそうでない学習があるような気もする。
- ・内容項目、教材、年間計画などによる相性もあるのか検証する価値もあると考える
- ・今回のテーマにおける「道徳教材の役割」について考えてみることも面白そうである。

1 実践経過報告から ③曾根原先生

「自分物語を紡ぐ道徳科授業づくり」


◎授業の学び⇔日常の言動のズレ

↓

「自分物語」を紡ぐことで変容を促す/ナラティブ

◎自分が本当にありたい自分＝新しい自分物語

◎深い自己内対話がある +
自分(の価値観)と本気で向き合う時間をもつ



○三つの実践を通して

- ・3人に発表に共通するのは「子どもを主」にしているところである。しかし子ども主体が進めると、教師がねらっている道徳的価値理解が進まないこともあると感じる。
- ・一時間の授業だけでなく、他教科、他の活動と有機的につなげることや、自分自身と他者との対話を大切にすることを引き続き意識してもらいたい。
- ・授業と実生活のずれは出てしまうということに敢えてダウトかけることが素晴らしい。

1 3つの実践経過報告から学ぶ

- ①道徳教育は全教育活動で行うもの「要」としての授業のあり方を考える
- ②道徳授業と実生活の「ズレ」にフォーカス2つをつなげる方策を検討する
- ③「対話」を重視した展開
 - ・自己内対話
 - ・他者との対話

↓

多面的・多角的な視点/深まり


授業が閉じていない。つながりと広がりがある！

○未来志向で考える道徳科

2 未来志向で考える道徳科

めざす子どもの姿

- ◎自らの学習に**当事者意識**をもち、課題に深く関わっていかうとする。
- ◎対立と向き合い、他者との**対話**を通して**建設的に考える**。
- ◎公益のための**変革の担い手**となるための**基礎を積む**。



2 未来志向で考える道徳科

道徳科で育てたい力

答えが一つではない問いに向かって、**協働して試行**
錯誤を重ね、自分たちの**納得解**を見つけていく力
(学習指導要領)

生きて働く力、社会で使える力

現実社会の中で、**どう判断・実践していくべきか**を考える力

基盤となる**心の力**

⇕

社会とのつながり
もっとリアル感の
ある学びを！

自分事として考える、「きれいごと」を超えていく力に！

道徳の枠組み…特活、総合との棲み分け??

◎「行動」について考えるのは道徳ではない?
◎「心」を中心に考えないのは道徳ではない?

決意表明のようなものは検討が必要だが…
行動について切り離して考えるのが
不自然な場合もある

↓

**「道徳」の枠組みを、
もっと柔軟に考えても
よいのではないかな?**

35時間の枠組の中で…
35-22=13の効果的活用
教科横断的な組立
「道徳科」そのものの
在り方…

ex. **社会とのつながりを重視した授業・教材の
開発 → ユニット学習**の可能性の追究

POINT
1時間1内容項目にしばられない授業デザイン
により、柔軟で深まりのある学びを目指す。

↓

**1時間の中に2つ以上
の内容項目が共存
する授業**
主たる内容項目
+
社会につながる内容項目

**複数時間にまたがる
ユニット学習**
多面的・多角的に
広がりのある学びの展開

・道徳においても不易を大切にしながら未来志向で進むことが望ましい。

○「問う」ことの追究

「問う」ことを追究したい

『問うとはどういうことか-人間的に生きるための思考のレッスン-』
梶谷真司 Kajitani Shinji

問うという行為は…

①好奇心の表れ
②違和感の表れ

知的好奇心
対人的好奇心

物事に疑問をもつのは、自分が生きるそのままの現実に出会う
ことであり、いわば自分の「存在証明」である。私たちは問うこ
とではじめて、自分の人生を生きることができるのだ。

考えることは問うことに基づいている。考えが漠然としている
のは、問いが漠然としているからだ。具体的に考えるためには、
具体的な問いを立てなければならない。問いの質と量が思考の
質と量を決める。要するに、考える力をつけるために重要なのは
「問う力」である。

「これからの道徳科」をどう構想しますか?

- 1 問うことは、なぜ重要なのか?
- 2 そもそも、何のために問うのか?
- 3 具体的に、何を問うのか?
- 4 実際に、どのように問うのか?
- 5 どうすれば問う力がつくのか?
- 6 現実の問題にどう対処するのか?
- 7 いつ問うのをやめるべきか?

『問うとはどういうことか-人間的に生きるための思考のレッスン-』から
梶谷真司 Kajitani Shinji

・「問う力」は道徳においても大きな意味がある。

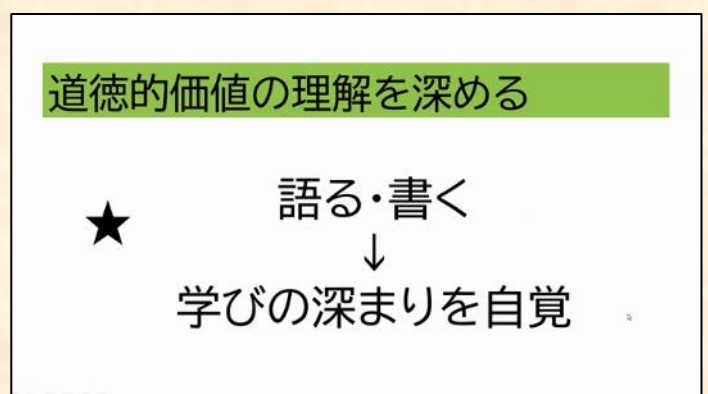
・1～7の設問の「問う」という言葉を「道徳」に置き換えることで大切なことに気付ける。

○「道徳的価値理解を深める」とは?

・道徳的価値理解を深めるとは、子どもが「内容項目の言葉を唱えればよい」ということではない。

・中心となる内容項目は「言わせるのもの」ではなく「チェックポイント」として捉える。

・いろんな方向から、チェックポイントとして内容項目について語り合うことで一人一人の学びの深まりを自覚
していくことができる。



.....

【質疑応答】

(園山会員に質問)

園山先生に質問です。現在、自分も特別支援学級を担当していて、絵本で泣いた赤鬼を使った授業をした。物語の内容を理解していないと同じ土俵になかなか立てないと感じている。長い文章をどのように理解させたのですか。

(園山会員 回答)

原文を読むと10分くらい時間がかかる。場面が大きく変わる所をこちらでチェックしておき、朝学習、読書の時間などを使って、そのきりのよい部分まで読み聞かせをした。小学校の教科書の話は短くまとまっているが、あらすじだけで、なかなか詳細が伝わってこないなので今回絵本を扱った。

(曾根原会員に質問)

曾根原先生に質問で「教材の役割」ということが先程、質問にあがっていたが、その点についてどのようにとらえていらっしゃるか。

(曾根原会員 回答)

登場人物を生き方のモデルとしてとらえることに教材の役割があると思う。「憧れる/憧れない言動」の理由を考えることで自分を深く見つめることができると考える。

(田屋会員に質問)

マルチユニット型の提案を聞いて、道徳を中心にした学級経営が児童を中心に主体的に進められているように感じた。年間このような形の学習を進めていく中で、児童が自分たちで活動をふりかえる場面はあったか。

(田屋会員 回答)

児童一人ひとりが全ての場面を通して、目標に近づけたかどうか振り返ることは、かまだ十分にできているとは言えない。今後も子どもの振り返りをより詳しく見ていくことでさらに効果が検証されていくと思っている。

(曾根原会員に質問)

ご提案にあった書くステップにおいて実際、どのように見取りをされていたか教えていただきたい。

(曾根原会員 回答)

抽出児童にインタビューすることで、特定の子に関しては達成できていることは見取ることができた。複数時間で子どもたちが目標を立てて、授業のはじめにどんなことをしたか、実際の生活方どう意味づけているかふりかえる実践を今後計画している。

(園山会員に質問)

授業をしていた子どもは、小学校でもこの「泣いた赤鬼」の教材を使ったことがあるのか。

(園山会員 回答)

生徒に尋ねたところ知っている子はあまりいなかった。しかし絵本のような見聞かせに対して生徒の肯定的な反応

が多かった。

(園山会員に質問)

終末の「フェードアウト」とはどのような状態か。もう少し詳しく知りたい。

(園山会員 回答)

広がっている思考を徐々に収束させていくイメージである。そのまま余韻を残して、学んだ事、考えたことが子どもの心に入っていきような感じである。教師が一方的に、「今日の勉強ではこれが大事だったよね！」と決めつけて終わりにしないよう意識している。

(参会者感想)

正に鉄が覚めていくようなイメージですね。

(田屋会員に質問)

教科に広がった学びが、また道德の学びに戻ってくるという流れが大変参考になった。

子どもの振り返りが紹介されていたが、あの言葉は一人の子どもによる振り返りなのか、それとも教科によって振り返りの言葉を書いている児童は違っているのか。

(田屋会員 回答)

今回紹介した振り返りシートは、ある一人の児童の変容を、振り返りとして紹介している。

児童は自分の好きなタイミングで振り返りをしていく。総合もユニットの軸にしているので、総合の時間などでも振り返りをしていた。

(曾根原会員に質問)

自分物語のご提案を聞いて、今までの経験と、現在の自分を結び付けることが苦手な子もいるとも感じた。その場合どのような支援を講じればよいか。また ICT によってどのような支援ができるかも教えていただきたい。

(曾根原会員 回答)

今までの自分の経験を、ICT 端末に蓄積し、回答共有をオンにしておくことで、自分もこういう経験があったなと思出すことができる。

そのように個人としてのエピソードを思い出すことが難しい児童には、総合学習や、運動会、行事などみんなが共通に体験してきたものをきっかけに思い出せるようにしている。

また自分の経験をふりかえる際は、クラゲチャートが適している。クラゲチャートの下に直接経験、どんなことを思ったかを書くことで、上の部分に自己理解の深い部分まで考えることができる。

.....

七條正典先生（日本道徳教育学会副会長）からのご講評

○「子どもたちの主体性」について

- ・三人の提案内容を聞いて「子どもたちの主体的な学習」をデザインするという部分で共通していると感じた。自分物語をはじめ、子どもが自己の生き方について主体的に考える際に、「自分自身の追究」という縦糸だけでなく、「他者の考え」という横糸があって初めて織りなされるものだと感じた。
- ・三者の違った角度からの提案をつなげていくと「子どもたちが主体的に学習する」ということが見えてくるのではないかと感じた。

○発達段階で異なる「教材の注目場面」

- ・提案にも出てきた「泣いた赤鬼」は支援学校、中学校でもよく扱われている教材である。低中高学年で色んな指導案が作成されている。例えば
低学年で指導案をつくる場合… 村人と仲良くしたい気持ち場面に焦点があてられる
中学年で指導案をつくる場合… わざと青鬼が村人のところで暴れる場面に焦点があてられる
高学年で指導案をつくる場合… 最後に青鬼からの手紙を読んでなく赤鬼の場面に焦点があてられる

このように、発達段階によって注目する場面が違う面白さがある。

○協働的な学びのとらえ

- ・自分を深めて行く時に協働的な学びをどうとらえるとよいか。
それぞれが考えていること、相手の意見を聞いて「ああなるほど」と感じる場面がある。
- ・「泣いた赤鬼」では、最初に「しんゆう」のイメージを全体に提示されたのがよかった。
最初にイメージを広げすぎること、焦点化した方がいいのではないかというご指摘もあるかもしれないが、
- ・何故、「赤鬼と青鬼は親友となるのか」という根拠を教材から考える。
親友、心友…と様々な答えが出るが、子どもたちのそれぞれによる理由づけが大切である。

○道徳と実生活をつなぐ

- ・道徳だけで自分の生活につないで学ぶことはことができるのか
- ・今回、野外活動でマルチユニットを組んだ実践例が紹介された。道徳科の学習、学校行事、どこにポイントを示しているのかまた、仲間、思いやりなのか、子どもが課題意識について考えられるように、何を中心にするか流れを意識するとよいのではないか。
- ・これから必要な「道徳的な価値理解」において、自己の生き方を、他者との協働性の中でも関連付けていけるとよいと感じた。

☆現場に実践に基づいた実践提案から、これからの道徳科授業の様々なヒントをいただきました。

ご登壇いただいた先生方ありがとうございました。